九州新幹線西九州ルートに関する「幅広い協議」（令和６年８月２３日）
～終了後の引馬地域交流部長囲み取材～

〇引馬地域交流部長

佐賀県地域交流部長の引馬でございます。どうぞよろしくお願いをいたします。

〇朝日新聞

今日の「幅広い協議」で、佐賀県としてどういうことを国のほうにお伝えされたかというのをお伺いしたいと思います。

〇引馬地域交流部長

はい、分かりました。

では、冒頭、私からお話をさせていただきます。

まず、国土交通省鉄道局幹線鉄道課、北村課長様から、冒頭、資料に基づいて御説明をいただきました。大変、丁寧な御説明をいただいております。

お話しできる範囲で申し上げますと、佐賀県に対して、新幹線の一般的な意義について、資料に基づいて御説明をいただいたということであります。佐賀県として、こうした新幹線の一般的な意義やメリットについてどう考えるかと、こういう形で意見交換が行われました。

私からは、これまでも佐賀県はこうした一般的な意義やメリットは当然分かっておるわけであります。したがいまして、皆さんも御案内のとおり、この経緯としては、もともと長崎県さんが御提案をされて始まった新幹線の関係でありますが、そうしたことも考えて、私どもは西九州ルートの整備に現に協力してきたという経緯をまず御説明申し上げております。

それから、この新鳥栖－武雄温泉間でございますけれども、ここについては、佐賀県は在来線ということで、関係者、地元の合意ができたわけで、私どもは手を挙げていないというスタンスで一貫してあるわけであります。

それで、仮にここをフル規格でつなぐとした場合の議論ということでありますが、これも我々佐賀県としては、これまでもお話し申し上げているところではございますけれども、やはり受益を大きく受けるのは主に長崎県さんでございます。他方で、莫大な財政負担や在来線の利便性低下ということで不利益が生じるのは私ども佐賀県であるということをお伝えいたしております。

こうした、いわゆる財政負担の話と在来線の利便性低下は大変大きな懸念点ではありますが、もちろん、仮にフル規格を議論するとすれば、これも私ども佐賀県は今まで申し上げているとこ

ろでありますが、改めて、いわゆる佐賀県だけではなくて九州全体の将来展望、こうしたものにどうつながるのかということ、それから、在来線や財政負担以外にもルート、地域振興といった、そういった課題がどうなるのか、セットで議論していく必要があるということ。何よりも、私ども、佐賀県民の皆様方にそうしたことをしっかりお伝えできるようなものになるのかどうかというところが重要だということはお話を申し上げております。資料に基づく国交省さんの御説明に対しては、私どもそういう議論をさせていただきました。

私どもも、資料をお配り申し上げて、御説明をさせていただいております。皆様もお手元にあろうかと思います。

私からは、これまでの経緯ということを改めてお話し申し上げています。

まず、佐賀県は３つのことということで、合意したことはしっかり守っているということ、それから、これまでも議論に真摯に応じてきているということ、それから、今後もその方針には変わりないという、この３点を大きくお伝えしております。

具体的に、資料に基づいて少し付言をさせていただきますと、西九州ルートでございますが、長崎県さんから、博多から武雄温泉までは在来線を利用するという提案を受けまして、地元でしっかり合意をして、佐賀県はその整備に協力してきたということ。

それから、この新鳥栖－武雄温泉間、これは佐賀県内区間であるわけでありますが、長崎県さんが、今申し上げたこの地元の合意と異なることを今望んでおられるわけでございます。したがいまして、既に原点に立ち戻り、地元３者で新たな合意形成を図られることが大変重要なのであると、本来の議論の在り方なのであるということで、私ども地元３者の意見交換というのを始めているということ。

この地元３者の意見交換については引き続き行っていくということをお話ししております。国からお求めがあって始まったこの「幅広い協議」、今日こうやってやらせていただきました。こちらも、私どもは今までどおり真摯にこの意見交換に応じていくということもお伝えをしております。

最後に、地元３者での意見交換でございますが、これは既に事務方での調整も開始しているということもお伝えを申し上げております。

私から冒頭の御説明は以上でございます。御質問ありましたらお受けをいたします。

〇朝日新聞

先ほどの最後の点は、次回に向けてもう調整に入っていると、そういう趣旨ということ……

〇引馬地域交流部長

はい、御認識のとおりでございます。事務方での調整を開始いたしております。

〇朝日新聞

いつ頃をめどとかというのは。

〇引馬地域交流部長

そういったことも含めて、まさに調整をしているところでございます。

〇朝日新聞

ということですね。

幹事社からあと１問だけ。今回初めて非公開で意見交換がありました。県議会のほうでも、公開の場だと切れないカードがあるというような指摘もあって、こういう形になって。先ほど国交省のほうからも、ただ、特にカードを切ったわけではないという話もありました。引馬部長としては、今回非公表でやって、新しい提案というか、新しい何かがあったという受け止めとしてはいかがでしょうか。

〇引馬地域交流部長

新たな提案はございませんでした。私ども、６月議会でも私は委員会の答弁でお話をさせていただいております。佐賀県は従来から、オープンであろうが、クローズドであろうが、基本的に変わらないというスタンスでございます。ですから、私どもがそういうスタンスで今回臨んでいます。

〇毎日新聞

先ほど国交省のほうから、改めて国交省としては佐賀駅ルートについて説明したということだったんですけれども、何かルートについて県のほうから国交省に何か説明されたりとか、提案されたりというのはあったんでしょうか。

〇引馬地域交流部長

先ほども少し申し上げましたが、まず、そもそもこの新鳥栖－武雄温泉間は私ども手を挙げていないわけでございます。これは一貫をしているわけでございます。それは大きな懸念点として財政負担と在来線の利便性低下ということ。

それから、それ以外にも、申し上げたルート、それから地域振興などの課題、こういうのをセットで考えなければならないと。さらに、佐賀県のみならず九州全体の将来展望という観点も重要であるということで、これは懸念点や観点というのは十分にお示しをしているわけでございま

す。私も、６月議会のときの答弁でも申し上げました、ボールは鉄道局さんにあるということは、これは変わっておりません。そうした観点では、何かルートについて私どもからお話し申し上げたことはございません。

〇毎日新聞

関連で。知事は、従来、南回りルートについては議論の余地があるというような発言をされていますけれども、今回はそういう話はされなかったのか。

〇引馬地域交流部長

先ほど私、観点の中にルートというお話もしました。ルートはもう御認識のとおりで、３つのルートということまではお示しをしておりますので、あとは、それを受けて、国交省さんとしてどうお考えになるかということだと承知をしております。

ですから、具体的な話は今日、何か私からはしておりません。お答えになっていますでしょうか。

〇毎日新聞

大丈夫です。

〇ＮＨＫ

御説明ありがとうございます。最後の言葉、ちょっと聞きそびれてしまったんですが、今、事務方での調整を開始しているというのは、これは３者協議、すみません。

〇引馬地域交流部長

はい。地元３者での意見交換の話でございます。

〇ＮＨＫ

いわゆる日程の調整を事務方で……

〇引馬地域交流部長

日程の調整なども含めまして、今、事務方で調整をいたしております。

〇ＮＨＫ

次のテーマでありますとか、どういう諸課題について議論するかとか、その辺りの具体的なところも今後……

〇引馬地域交流部長

今後です。これまでも、私ども佐賀県は一貫しておりまして、しっかりと皆様方にお話ができるようなタイミングになりましたらお話をさせていただきます。お相手もあることですから、お

相手とお話をした上でということになります。

〇ＮＨＫ

ありがとうございます。今回の「幅広い協議」なんですけど、新たな提案はなかったということだったんですが、引馬部長としては、今回のこの協議、どのような意味を持つものなのかというか、どういうテーマであって、どういう趣旨であって、その辺りの御認識というのはどうでしょうか。

〇引馬地域交流部長

ありがとうございます。

冒頭申し上げました佐賀県３つのことということで、議論に真摯に応じてきた、それから２つ目として、その姿勢は今後も変わらないというところでございます。したがって、この国との間の「幅広い協議」、それから地元３者の意見交換、こういった意見交換の場には私どもは引き続き真摯に応じていきたいというふうに思っております。ですから、今回は確かに新たな提案はなかったわけであります。基本的にオープンとクローズドで、私どもとしては基本的に変わらないと認識をしております。そういう点では、この話し合うということ自体の意義というものはあったというふうに当然考えております。

ただ、やはりこの新幹線の課題については、なかなか難しい問題であるなというところは認識を新たにいたしております。

〇ＮＨＫ

関連して、難しい問題、課題であるというところは、やはりなかなか議論が進んでいないというか、協議自体は続けるかと思うんですけど、そういった点でしょうか。

〇引馬地域交流部長

議論が進んでいないとなると、私どもが何か手を挙げて前に進めることを求めているような感じに取られかねないかというふうに思いますので、もう一回申し上げますと、今対象になっている新鳥栖－武雄温泉間について、これは地元の合意は在来線ということであります。私どもはそういう点で一貫して手を挙げていないというスタンスでございます。ですから、私どもは自ら打開するような立場ではないということ、これは変わりございません。ただ、ここについて、当時の合意と違ったことをお考えになられる方がいること自体、これは私どもとしても認識はしていて、意見交換をしていくということ自体、これは意義があるというふうに思っております。ですから、これまでもそうですし、引き続き真摯に応じていくということに尽きるんだろうなという

ふうに思っております。

〇日本経済新聞

確認なのですが、今日の「幅広い協議」を経て、今後、この新幹線問題の話合いを進めるに当たっては、イメージとしては、やはり地元３者で今事務方の方が調整されている協議を先に進めておいて、それがある程度めどがついたところで、もう一度国にこの「幅広い協議」なり上の協議というのを持ちかけていくというイメージですか。

〇引馬地域交流部長

持ちかけるということはないんだと思いますね。私どもはそういう点では自ら打開する立場ではないわけでありますが、ただ、国からはお求めがあって、こういった「幅広い協議」にも応じているわけであります。今回は私どもから、県議会議員の方からクローズドでの提案というふうにしてはどうかというお話を受けて、私ども佐賀県としてこういうことを御提案申し上げました。基本的には、私どもは今、地元３者での意見交換ということをやっておりますので、申し上げましたとおり、事務方での調整は既に開始しております。そちらのほうが進んでいくんだろうというふうに思っております。

〇日本経済新聞

となると、佐賀県からもちろん打開する立場ではないということであれば、地元３者での合意というのは粛々と進められて……

〇引馬地域交流部長

合意が得られるかどうかというところもあろうかと思います。

〇日本経済新聞

そうですね、話合いを進める。そのチャンネルはそれで進めておいて、今回のこの「幅広い協議」というステージというか、チャンネルは、もとから引き続きということなんですが、どういうイメージを思っていらっしゃいますか。

〇引馬地域交流部長

分かりました。ありがとうございます。

「幅広い協議」は、基本的には国から求めがあって私どもは応じております。したがって、国のほうでどういうふうに考えるかということだと思っております。求めがありましたら、引き続き私どもとしても当然真摯に応じていくものだと思っています。

今回、私どもから提案した経緯は、これは御案内のとおり、県議会議員の方から、クローズド

でないとなかなか切りたいカードも切れないといったお話を国から聞いていらっしゃるということがあって、ならば、私どもはそういう認識はないんです、それがいいか悪いかとか、そういう判断ではありません、そういうふうにお考えになられている方がいらっしゃるとなれば、これは当然、私どもとしても真摯にお声がけをすることが妥当だろうという判断をして、クローズドでやってはどうかという提案をいたしました。

ですので、そういう点では、今回、新たな提案はなかったということでもございます。あとは国のほうでまた求めがあれば粛々と応じていくということかなというふうに思っております。

他方で、地元３者の意見交換については、申し上げました、これはもともと平成４年の地元合意というものの中で、今対象になっている新鳥栖－武雄温泉間について、これは、繰り返しになりますが、在来線という合意しかないわけであります。しかし、その在来線という合意と異なったことを長崎県さん等々がお話をされているわけでありますので、ならば、もう一回地元で忌憚なく意見交換をしようということであります。ですので、こちらについては、申し上げましたとおり、次の会合に向けて事務方で調整を開始しているということでございます。お答えになりましたでしょうか。

○日本経済新聞

じゃ、進展は、１年前、１年半ぶりの開催になったんですが、要するに１年半ぶりにもう一回テーブルに着いたという感じですか。

○引馬地域交流部長

そうですね。ただ、「幅広い協議」のお話をされていると思いますが、クローズドでないと切りたいカードが切れないというお話があって、私どもはそういう認識はもちろんないわけでありますが、ただ、そういう話を聞いていらっしゃるというお話でございました。これはやっぱり真摯にちゃんとお声がけをしないといけないと、県議会議員の方からそういうお話をいただいたわけでありますから。したがって、山口知事もああいうふうに、ならば提案してみようといった、これは大変自然なことだと思いますし、その日のうちに私がすぐに北村課長様に連絡を取るというのは当然のことだと思うんですね。

ただ、新たな提案がなかったということは、これは事実です。しかし、これは皆さん方にお伝えしたいと思っているんですが、もちろん組織は組織で、立場の違いというものはあると思います。しかし、担当者同士が信頼関係を持って意見交換をしていくということ、これは大変重要なことだと思います。ですから、我々、これまでも佐賀県としては真摯にその議論に応じてきたわ

けでありますし、これからも応じていくということだと思います。そういう信頼関係に基づいて意見交換をしていくということ自体は、今回の「幅広い協議」で、私、担当部長としては認識はできています。

〇日本経済新聞

これからもクローズドでやっていかれますか。

〇引馬地域交流部長

そこに関しては、国交省さんがどうお考えになられるかということかもしれません。というのが、私としては、やはり引き続き、佐賀県としてはオープンとクローズドの違いは基本的にないという考え方、これは変わっておりません。

〇日本経済新聞

佐賀県としてはどちらでもいいという。

〇引馬地域交流部長

そうですね。クローズドでおやりになりたいという御意向が仮に国におありであれば、それは真摯に応じていくということだと思います。私どもから、今、私、担当部長としては何か改めてクローズドでということはないのではないかというふうには思います。

今回、そういう点では、何か新たな提案があれば、ああ、なるほど、そういうこともあるんだなというふうに当然思うと思うんですね。ですから、そういうことがなかったということではあります。

ただ、それをもって、この協議自体の意義がないかというと、そういうことではありません。あくまでもオープンかクローズドというのは形式ですよね。大事なことは、形式にかかわらず、申し上げたとおり、信頼関係でお互いに意見交換をするということだと思っております。

〇佐賀新聞

非公開でやったことそのもの、非公開自体は今回どういうふうに評価されますか。

〇引馬地域交流部長

そういう点では、引き続き私どもとしてはオープン、クローズドというやり方に違いはないという考え方、これは私は変わりません。ただ、これはお相手がある話です。ですから、今日、北村課長様がどのように受け止められたかということではないでしょうか。

〇佐賀新聞

知事は非公開でやるとき、６月議会のときに、一度非公開でやってみてはどうかという言い方

をされていたと思うんですけれども、スタンダードは公開なのかと思うんですが。

〇引馬地域交流部長

私、そう思っております。ただ、先ほど申し上げましたとおり、組織の立場の違いはある中で、ただ、意見交換を信頼関係に基づいてやっていくこと自体は大切なことです。お相手が、やはりクローズドのほうがいいということであれば、それは我々として考えていくということだと思います。ただ、私から何かオープン、クローズドというやり方にこだわるものではございません。

〇ＮＢＣ

前回の３者協議はトップ同士の３者協議だったと思うんですけれども、次の３者協議に関してはどのレベル、トップ同士の３者協議を考えられているのか、それとも今日みたいな事務方での協議を考えられているのか、その辺りいかがでしょうか。

〇引馬地域交流部長

私が先ほど今行っている、事務方で調整を行っているというのは、その協議の主体が事務方ということを意味しているわけではなく、協議の主体がどうかということも含めて、その段取りを今事務方で調整しているということでございます。したがって、今の御質問に対するお答えは、これは３者、お相手のあることでもあります。どういう立場の方でやるかということも含めて、今その事務方で調整をしていると、そういうことでございます。

〇ＮＢＣ

もう一点だけ。３者協議を続けていきたいという佐賀県の御意向と、長崎県の知事は常々４者、国を入れて協議していきたいというふうにおっしゃっているわけなんですけど、なかなかそこで折り合いが、その段階でつかない状況になってしまっているわけなんですけど、そこについては佐賀県さんはどのように。

〇引馬地域交流部長

これも、これまで私どもは佐賀県、いろいろな立場でお答えをしているところになりますけれども、改めて申し上げると、やはりこの新幹線に関しては、平成４年地元合意があって、それで国に要望をしたという経緯です。したがって、その当時の地元合意と異なったことを地元の一角の方がおっしゃっているわけであります。ですから、まずは地元同士で議論をしましょうということです。ただ、その地元の議論がどうなるか分かりません。予断を持っておりません。仮に何か一定の方向性が見えてきて、国も入れて議論をしようということで地元がまた頭がそろえばですね、それは国を入れていくということだとシンプルに考えております。ですから、何か頭から

国を入れて議論しないということではなくて、というのは、平成４年がまさにそういう経緯をたどっています。しかし、私どもとしてはなかなか難しい問題だと認識をしております。懸念点等、観点をお示ししていますので、そういったところで真摯に議論していくということに尽きるのかなと。まず地元で議論していくということに尽きるのかなというふうに担当部長として思っております。

○佐賀新聞

端的に、今日国から新たな提案がなかったことについて、国の対応についてどう思われますか。

○引馬地域交流部長

私どもそもそもこの新鳥栖－武雄温泉間について手を挙げていない立場、自ら打開する立場ではありません。したがって、新たな提案がなかったことに対して評価する立場じゃないと思っています。それが一番シンプルな立場です。

ただ、何か私どもが気にしている懸念点とか観点というところで、私どもがこういうことがあるのかという新たな提案があれば、それは議論が前に進むんだと思います。それは昔から佐賀県の立場は変わっていないと思います。そういう点では新たな点はなかったということで、何かそこに対して評価を加える立場ではないというのはそういうことでございます。

○読売新聞

３者協議の関連での質問なんですけれども、それは事務方レベルで調整中ということで、それは今日の協議の場でも今調整しているということは御説明されていらっしゃるということでしょうか。

○引馬地域交流部長

地元３者での意見交換でございますが、事務方で調整をしているということは、これはお伝えをしております。

○読売新聞

それに対して、いわゆる国交省側から、例えば、我々もとか、そういうような提案といいますか、それに対する受け止め、反応というのはどういったものがあったんですか。

○引馬地域交流部長

そこに関しては、そういうことなのだということで御理解をいただいているというふうに認識しております。

○読売新聞

分かりました。

○引馬地域交流部長

よろしゅうございますか。もし何かありましたらお受けいたしますが。

○長崎新聞

先ほど佐賀県さんとしては、財政負担だったり、在来線の問題、こういったところは懸念されているということですけど、３者協議をする中で、地元合意をされるのかなと思うんですけど、こういった懸念が払拭されないままで３者で協議をして、何かしら合意が得られるというふうにお考えでしょうか。

○引馬地域交流部長

その点に関しても、何か私どもから評価をする立場ではないということなんだと思うんです。しかし、先ほど申し上げたとおり、私どもの立場は一貫しています。さらに、懸念点とか観点をお示ししています。しかし、それで私どもはかたくなに議論を拒むということは、これは本意ではないわけであります。違ったことをおっしゃっている方々がいらっしゃって、ならばしっかり真摯に意見交換をしていくということだと思っています。それが私どもの佐賀県の基本的なスタイルで、私は大変重要な価値観だと思っています。ですので、もしかしたらこのままいって、何も新たな合意というのがないかもしれません。私どもは自ら打開する立場じゃないですけれども、ないかもしれません。しかし、そういった意見交換を真摯に行っていく、それぞれの立場の違いということを踏まえて信頼関係で意見交換をしていく、もちろん私どもは県民の方々に対してしっかりお示しできるかどうかという点で大変厳しく意見交換させていただきますけれども、しかし、それはそういう観点での厳しさであって、意見交換をするというところは真摯にやっていくということなんだと思うんですね。それは今までも変わっておりませんし、これからも変わっていないということだと思っています。お答えになっていますでしょうか。

○長崎新聞

もう一点だけ。先ほどもちょっとお話に出ましたけど、長崎県の知事が４者でできないのかというところ、それから、佐賀県さんも真摯に協議されていると思うんですけど、そこで仮に平成４年の地元合意があるにせよ、国を入れて４者にしたとしたら地元合意にはならないということなんでしょうか。そこをオブザーバー的にというか、加えた上で、こういった懸念されているところもそれこそ幅広く議論できると思うので、そちらのほうが地元合意に近づくんじゃないかなというふうに思うんですけど、その辺りはいかがですか。

○引馬地域交流部長

私どもはそういうふうに思っていないんですね。やっぱり平成４年の地元合意というのは、地元の間でどういうふうに考えるかということをまず考えて、それで制度を所管している国に対して要望したというところ、ここはまずやっぱり地元で地域住民の方々にとってこの新幹線というのがどういう意義があるかということをまず地元でしっかりと議論をしていくということが、これは大変重要なステップなんだと認識しています。だからこそ、大変皆さん方も御案内のとおり、平成４年の地元合意については大変いろんな議論があったわけであります。私ども佐賀県もいろいろな苦しい思いを特定の地域の方々には、特に鹿島、太良の方々には大変苦しい思いをしていただきながら、今のこのいわゆる新鳥栖－武雄温泉間は在来線で、武雄温泉から長崎まではいわゆる新幹線を整備していくということで何とか地元が合意したわけであります。つまり、そういうことが多分重要なんだと思います。そういうのは地元でしっかりと議論をするということがやっぱり重要なんだと思います。その上で、初めてみんなが総意になって、ではここに新幹線をつくるという、こういうステップ、行為が重要なのだと思っております。その点では佐賀県は一貫しているんだと思っています。

それで、その地元３者で何かしら、平成４年の地元合意と違った、異なったような合意に向けての方向性が仮に見えるのであれば、それはその時点で初めて、ではちゃんと地元でよく佐賀県はスクラムを組むという言い方もしていますが、スクラムをしっかり組んで、それで国に初めてという、このステップを踏んでいくことが重要だと思います。

○引馬地域交流部長

ありがとうございました。引き続きよろしくお願いいたします。

以上